

台風の接近に備えて対策を！

台風の接近に備えて、下記の事前の準備と通過後の処置をお願いします。

また、ほ場や施設の点検は、台風情報を十分確認し、大雨や強風が治まってから行うようにしてください。

【水稲】

1. 台風通過前の対策

事前に排水路の詰まり等の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備える。

貯蔵施設において、あらかじめ浸水の被害が想定される場合には、収穫物を浸水の危険がない安全な場所に移動するなど、適切な対応に努める。

2. 台風通過後の対策

冠水した場合、葉先や穂先だけでも水面に出すよう速やかな排水に努める。

台風通過直後のフェーン現象の発生により稲体の水分含有率が低下し、白穂の発生等が懸念される場合には、通水による水分補給により稲体の活力保持に努める。

また、白未熟粒や変色粒等の被害粒の発生を多く認めたときは、関係機関に相談する。収穫直前の地域において、稲体の倒伏や穂発芽の発生などにより品質の低下が懸念される場合には、可能な限り速やかに収穫作業を開始するとともに、被害稲については、仕分けを行い、乾燥、調製作業を実施する。

【大豆】

1. 台風通過前の対策

事前に排水路の詰まり等の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備える。

2. 台風通過後の対策

冠水又は浸水の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。

冠水や浸水等を受けた場合、生育遅延や根腐れを引き起こし、日照不足と相まって、病害虫に対する抵抗性が弱まること、また、風により莢が損傷した場合や倒伏した場合に、傷口からの病原菌の侵入により、カビ粒、腐敗粒、紫斑粒の発生が懸念されるので、病害虫の発生動向に注意し、適切な防除を行う。

【野菜】

施設野菜（雨よけを含む）

1. 台風通過前の対策

パイプハウスが耐えられるのは風速2.5m程度(アーチパイプ25mm、50cmピッチ、間口6.0m)で、補強パイプを入れたコンクラハウスでも風速3.2m程度と考えられる。内作に影響がなければ、フィルムは除去しておく。内作がある場合はハウスを密閉し、隙間や破れ、緩みを点検し補修する。

(ハウスバンドの締め直し、バンド固定用のパイプや番線、らせん杭の点検、フィルムの補修、ドアの押し込み防止・開き防止の補強等)

換気扇があるハウスでは、出入口を密閉して換気扇を稼働させ施設内を負圧にする。風圧を弱める対策として防風ネットをハウスの軒高と同じか高いくらいに設置する。

パイプ埋め込み部分が水で緩くならないよう、ハウス周囲の排水溝を点検して手直しする。

強風により、資材・木片・小石等が飛来して被覆資材が破損しないように、施設周辺を清掃しておく。

生育中の野菜がない簡易パイプハウスなどでは被覆資材を巻き上げて軒の部分にくくり付ける。

鉄道沿線や幹線道路沿いのハウスではフィルム等が飛散し、2次的な大事故の原因とならないように十分に注意する。

2. 台風通過後の対策

速やかにほ場の排水を行い、停滞水のないようにする。

吹き返しの風の強さや方向に注意しながら、サイドビニールの巻き上げ・天窗の解放を行って、施設内温度をできるだけ早く降下させる。

茎葉に付着した泥などは、速やかに殺菌剤や水などで洗い流す。

野菜や苗等のしおれが甚だしい場合は、寒冷紗やべたがけ資材等を被覆して、高温の場合は植物体温の低下と蒸散の抑制を図る。

茎葉の被害により、細菌病などの病害が発生しやすくなるので被害株や被害葉を除去し、防除を徹底する。

草勢を回復するため、台風通過後に液肥の葉面散布・追肥を行う。また、土壌表面が固まっている場合は軽く中耕する。

露地野菜

1. 台風通過前の対策

排水溝をさらえるなど排水に努める。また、排水口は必ず作っておく。

収穫中の野菜は早めの収穫を行う。

播きつけ直後のものは、種子の露出を防ぐために寒冷紗等で被覆する。

幼苗期のものは、台風前に土寄せや土入れを行って株の揺れを防ぐ。

定植時期のセル苗等は老化しないように液肥を与え、定植時期をずらすなどする。

風速が強くなる場合は、事前に誘引ネットやテープを切って、畝の上におろし、上から防風網や寒冷紗等で押さえるなど動かないように固定し、台風の通過後に復元する。

ほ場周辺に防風ネットまたは防風垣を設置する。

2. 台風通過後の対策

速やかにほ場の排水を行い、停滞水のないようにする。

被覆資材で被覆している場合には、できるだけ早く除去し、付着した泥を殺菌剤や水で洗い流す。

風雨で損傷を受けた場合は、殺菌剤を散布し予防に努める。

支柱を立て直し、誘引しなおす。

株元が露出したり土壌が固まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せを行い、畝全面を軽く中耕して通気性をよくする。

豪雨により肥料の流亡が考えられる場合は、速効性の窒素やカリ肥料を追肥する。

草勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や葉面散布が効果的である。

【果樹】

1. 台風通過前の対策

予想される強風程度と果実の成熟程度に応じて、収穫盛期のナシ・ブドウはやや早めの収穫を行う。

幼木や品種更新のために高接ぎしたものは、支柱を立て枝折れが起こらないよう枝をしっかりと誘引し固定する。

ナシ、ブドウ、キウイフルーツなどの棚栽培する果樹は、強風が棚面をあおり被害を大きくするので、太い棚線の交差部分に重さ2kg程度のおもりをぶら下げ上下動を少なくする。棚線や支柱の強度、欠損箇所を確認し、支柱を増やしたり、棚線を張り直して緩みをなくするなど、棚自体を補強する。防風、防虫ネットを設置している園ではネットの結び目等を確認する。

ハウス栽培では、控え線やハウスバンドを締め直し、ビニールの張りを点検する。

また、ハウスの周辺から物が飛んできて破損することがないように見回り予防する。強風時はビニールを張って完全密閉し、換気扇がある場合は稼働させハウス内を負圧にし、ビニールのばたつきを少なくする。

ハウスの強度を上回る強風が予想される場合は、天窗やサイドの換気部分を全開にして、ハウスの上部と妻部分のビニールを外すか破り、ハウス本体が倒壊破損しないようにする。

シートマルチ栽培では、シートマルチが強風であおられると風ズレ果や枝折れが発生しやすくなるため、シートマルチの押さえを点検して補強する。

2. 台風通過後の対策

降水量が多く、ほ場に長期間滞水する場合は根の活力低下、枯死を防ぐため、側溝のゴミ、泥の除去、除草を行うなどして水の流れを良くしたり、浅い溝を掘って表面水を園外に排水する。

倒木した場合は速やかに起こし、支柱などにくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。折れた場合は切り戻し、癒合剤を塗布する。

雨による病気の蔓延や風による樹体の傷口から病気の感染の恐れがあるので、農薬安全使用基準に従って殺菌剤を散布する。

【花き】

1. 台風通過前の対策

施設に対する対策は野菜に準じる。

降雨が速やかに排水されるように、排水溝をさらえるなど排水対策を講じる。

草丈の低い花きについては、寒冷紗等で被覆する。

草丈が高く支柱を立てている花きについては、畝の両端の親支柱や中間支柱をしっかりと立て直し、中間にクイを入れて補強し風害に備えること。

フラワーネットは頂点から3分の1程度下がったところで支持する。

風で花きが揺すられることにより、フラワーネットが低い位置に下がることがないように、所々で支柱とフラワーネットを結んでおく。

収穫前の小菊等は早めに収穫する。

2. 台風通過後の対策

停滞水が生じないように、速やかな排水に努める。

倒伏した花きは、光に当たると曲がってしまうので、台風通過後は一刻も早く、倒伏した株を地際から立て直し、茎や花穂の曲がりの防止に努める。

病害が発生しやすくなるので、折れた茎葉を除去し、殺菌剤等の薬剤散布等により、病害の発生抑制に努める。

3. 収穫中の小菊の対策

台風が来る前に固めの切り前で収穫し、下葉除去等の調整後、できるだけ涼しい場所（常温でも良い）で水揚げ・保管後に出荷する。水揚げ・保管が通常より長くなるので、箱詰め前に再度切り戻しを行う。（再度切り戻すことを想定した長さで水揚げ・保管しておく必要がある。）

台風が去るのを待って、通常出荷する場合は、風雨による花卉や茎葉が傷みは、高温やムレで症状が重くなるので、収穫後の水揚げや調整作業は通常よりばらけさせて取り扱う。収穫時に花や茎葉が濡れている場合は、水揚げ中も扇風機などで乾かして、濡れたまま箱詰めしない。

【畜産】

1. 台風通過前の対策

畜舎等の施設に雨、風が吹き込まないように、入り口や窓をしっかりと閉めておく。

弱い部分は強風で破損しないよう補強する。特に、ハウス等の簡易な施設は、支柱やビニール押さえのバンドを増やし、カーフハッチ、防暑用の資材などは飛ばされないよう対応する。また、吹き込んだ雨で飼料等が濡れないよう畜舎内を整理しておく。飛来物による施設等の損傷を防ぐため畜舎周辺の整理に努める。浸水のおそれがある場合は、堆肥舎に水が流れ込んだり、ふん尿が流れ出さないよう土のうを置く。

飼料作物の栽培ほ場は、排水を徹底しておく。

2. 台風通過後の対策

畜舎に雨が吹き込んだ場合は、風通しを良くし、乾燥に努める。特に湿った敷き料は速やかに交換する。

飼料作物栽培ほ場は、滞水しないよう速やかに排水を行う。強風等で倒伏し、回復が見込めない飼料作物は早急に刈り取る。